

熊谷谷総鎮守 高城神社

埼玉県熊谷市宮町二丁目九三番地（ＪＲ熊谷駅から徒歩十分）

四季折々、多くの熊谷住民に親しまれている高城神社は、創始奉斎は奈良時代以前と伝えられています。『延喜式神明帳』に「大里郡一座高城神社」と記載されていることから、このことがうかがわれます。

天正十八年（一五八〇）豊臣秀吉が小田原の北条氏を攻めた際、忍城（現・行田市）も攻められ、高城神社も災禍に遭い社殿を焼失しました。

その後、寛文十一年（一六七二）に再建しましたが、忍城主、阿部豊後守忠秋が「高城神社は式内社」であることから社殿再興を計ったのがきっかけでした。

この時、再建された本殿・拝殿は今もなお当時の面影そのままに残されています。

（本殿・拝殿・手水舎以外の建物は昭和二十年八月十四日の熊谷大空襲によって焼失）

祭神は『高皇産靈尊』で「縁結び」「家内円満」「商売繁盛」の神として崇敬されています。

神事として、毎年六月三十日に「胎内くぐり」が行われます。国道１７号に面した一の鳥居に直径４メートルもある大きな茅の輪を設置し、その茅の輪をくぐって災厄を取り除くというものです。

また、毎年十二月八日には「酉の市」が境内で行われます。熊谷西の市発祥の地として高城神社には熊谷住民だけでなく多くの人たちが熊手や飾り物を求め、足を運びます。

境内には樹齢六百年以上のケヤキが数本あり、御神木のケヤキにいたっては樹齢が八百年以上とされています。

境内の末社には、熊谷の地名を産んだ「熊野社」、六柱の神をまつる「六社」、新生児のお食いの初めの時に歯ぐきに当てると丈夫な歯が生えると言われている赤石が敷き詰められている少彦名神（医学の神様・歯の神様）をまつる「天神社」がある。

大祭

春祭 四月十日

秋例祭 十月一・二・三日

特別神事

元旦祭 一月一日

節分祭 二月

胎内くぐり 六月三十日

酉の市 十二月八日

宝物

熊谷絵地図（市指定文化財）

青銅常夜燈（市指定文化財）

オランダ鏡・鎧・蹴まり一式

奈良以前	高城神社創始
天正十八年	秀吉小田原攻略の際、焼失
寛文十一年	阿部豊後守の命により再建
大正五年	村社から県社に昇格
昭和二十年	熊谷大空襲により一部焼失
昭和三七年	拝殿屋根葺き替え
昭和四七年	高城記念館建設
昭和五五年	幣殿改築
昭和五八年	境内東側玉垣改修
平成三年	西側玉垣改修
平成七年	拝殿屋根銅板葺改修

各種祈願・祭典のお問い合わせは社務所まで
電話・〇四八・五二一・一九八五